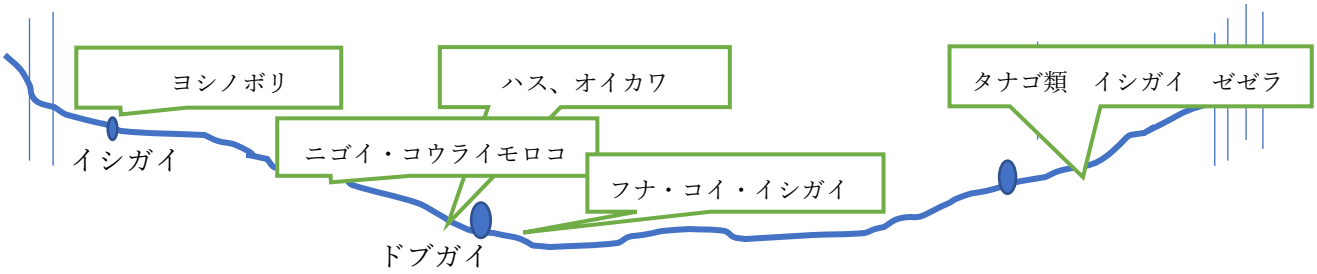
●9 月 04 日の第 24 回里山講演会の概要報告をお伝えいたします　28 人が参加

淡水魚・天然記念物　アユモドキ　イタセンパラ　ネコギギ　ミヤコタナゴ

イタセンパラと二枚貝

・イタセンパラの生息は二枚貝が必要
（イシガイ、ドブガイ）
・二枚貝の繁殖には貝の幼生
グロキディウム幼生がくっつく魚類が必要（ヨシノボリなどの底生魚）。寄生した魚から養分をとり貝に成長して、分布を広げる。
魚がいないと貝の増殖が不可能。　多様な生き物がいて貝が増えてイタセンパラが生き残れる。



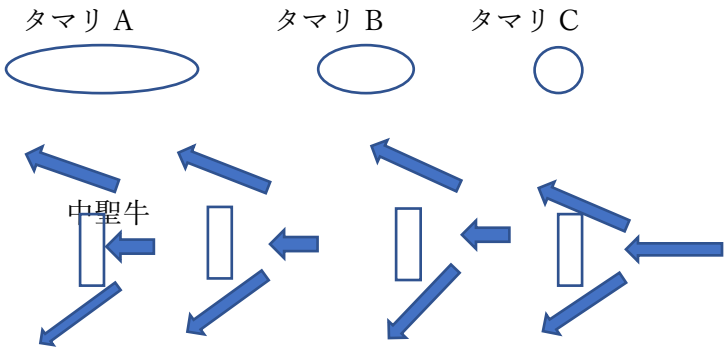
・魚類は一生をワンドで生き続けられない　。産卵、成長に利用して成魚になると本川に出て行く。本流と繋がっている必要がある。（タマリなどは洪水時に本流から出入りする。）
・イタセンパラの最期の確認
淀川　　2005 年　　木津川　2007 年
1990 年代　木津川は河床低下が進み、良好なワンド、タマリがたくさん出現して、タナゴ類、イタセンパラがたくさん棲息していた。（泉大橋ワンド　玉水浜ワンド　山城大橋タマリなど）
・大阪のイタセンパラは木津川から流れ着いたものだろうとの仮説がある
淀川のイタセンパラ絶滅の原因
・河川整備　人命をまもる　公園 散歩 運動　　河川改修　蛇行→直線化　（ワンド流失）
淀川大堰による水位の変化がなくなる 外来魚の繁殖

淀川のイタセンパラ復活の取り組み

・2011 年　息長く続けられるシステム　イタセンパラ保全市民ネットワークを作り城北ワンドでの保全活動を始める（淀川河川事務所、生物多様センター、大阪府、大阪市、寝屋川市、市民団体，企業）業務として保全活動ができる仕組みが大切
・2011 2012 年　月 2 回　ワンドの外来種駆除を実施(ブラックバス、ブルーギルが 9 割)
2013 年　　秋　イタセンパラ放流　オス 250 匹メス 250 匹
2014 年　　春　二世代稚魚確認　　2015 年　三世代確認　　2016 年　四世代確認
2017 年　　8888 匹　　2018 年　2 万匹　　2019 年 11677 匹
この間毎月 2 回の外来魚駆除(捕獲作戦)　イベントとしてブルーギル等外来種釣り大会（300～400 人）
→外来魚の減少　大きいものは姿を消す
密魚対策…地域の人を集めた小中学生　マスコミ　企業行政地域の集団つくり

2020 年　以降　コロナ感染寛大によりすべての活動が停止→外来魚が増えている
2022 年　人数制限で活動再開→　イタセンパラの減少

木津川玉水浜の 3 個のタマリについて



2017 年～2020 年で 4 基の中聖牛が設置された。2017,2018,2019 年は洪水が多くあり 4m 水位が上がれば中聖牛に当たった水流がタマリに流入して攪乱が起きた。たまっていた土砂などを流し、生き物も入ってタマリのリフレッシュが起きる。
しかし 2021 年 2022 年 8 月現在、大きな洪水がなく攪乱ができていない。

タマリ A	タマリ B	タマリ C
広くて深い。砂礫	深い。砂礫と泥	浅い、泥が多い
シロヒレタビラ シマドジョウ 他の魚	生物　多い	タイリクバラタナゴ　メダカ
トンガリササノハガイ ドブガイ 水質的、砂礫の河床もよい ☆外来魚駆除	ドブガイ イシガイの殻のみ ☆調査必用	イシガイ 稚貝もいる イタセンパラが好みそうだが泥が多い。 ☆泥の改善

質問と発言

・タマリ C は泥が多い。泥を出したいのだが人力での攪乱はできるか
　→ 泥を手作業で運びだす方法もあるが・・・
・トンガリササノハガイはイタセンパラの産卵に使われるか
　→ イシガイが適当。トンガリササノハガイはヒガイが利用する。
・ヨシノボリの減少が気になっている。原因は?
　→ ヨシノボリの産卵に適した石が少なくなっているのではないか
・三つのワンドを水路でつなぎ、玉川から水が入るように水路を掘ることによってタマリの環境をよくすることができるのではないか(かつて玉川は河川敷を流れて木津川と合流していて、今のタマリはその水路の一部が残ってできたものではないか。)
　→ 玉川は周りの山がホルンフェルスでできているので直接砂が入ることはない。木津川にタマリを作っても砂に埋まってしまうが、洪水時のバックウオーター減少でタマリに水が入り攪乱ができる可能性がある。

その他

・フナバラソウ結実は素晴らしい　種が採取出来たら広く栽培が可能　危惧種解除の可能 性(光田先生)
・竹林伐採と竹チップによる昆虫発生実現　カブトムシ　ヒラタクワガタ等(ポレポレランド野村先生)
・ため池と木津川の連携調査実施　ため池情報の提供が欲しい(石田先生)